

# 川上ダム通信

2022  
2  
月号



独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所  
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)

川上ダム通信は川上ダムホームページでもご覧いただけます。  
<https://www.water.go.jp/kansai/kawakami> 又は「川上ダム通信」で検索  
(右のQRコードを読み取っていただくと川上ダムホームページへ移行します。)



Vol. 198  
Since 2005



川上ダム公式 Twitter で工事の進捗状況やイベント情報を随時更新中！  
[https://twitter.com/jwa\\_kawakami](https://twitter.com/jwa_kawakami)

ご意見・ご感想はこちらへ  
[e-mail:somu1@lily.ocn.ne.jp](mailto:somu1@lily.ocn.ne.jp)

## 試験湛水状況・試験湛水中の観測内容

川上ダムでは、令和3年12月16日(木)より試験湛水を開始しました。冬季にかかわらず時折の降雨もあり、順調にダム貯水位が上昇しています。令和4年1月20日時点でのダム貯水位はE.L. 227.59mであり、ダム堤体の基礎地盤標高E.L. 198mに対して30m程度貯留された状況です。直近では1日あたり0.15m程度水位上昇しています。

試験湛水とは、水を貯められる最高水位まで貯水位を上昇させ、その後確認が必要な貯水位まで降下させることにより、ダム堤体や貯水池周辺地山等の安全性を確認するものです。これらは、試験湛水により初めて貯水による水圧を受けることから、安全管理のため以下の観測・巡視を日々行っています。また不測の事態に備えて川上ダム管理棟には24時間常時人員を配置しています。

- (1) ダム堤体観測・巡視 (毎日)
- (2) 貯水池斜面観測・巡視 (毎日)
- (3) ダム堤体及びダム右岸鞍部の地下水位等観測・巡視 (毎週)

試験湛水中は下流河川での取水や河川環境保全のため必要な水を下流に流しながら、ダム貯水池に流れ込んでくる水を貯めていきます。ただし、洪水期(6/16~10/15)は大きな洪水が想定されることから、洪水調節のため、常時は洪水貯留準備水位で貯水位を維持しておきます。

このようなダムの操作を行いながら試験湛水を実施し、ダム等の安全性を確認した後、ダムの本格運用を開始する予定です。引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。



試験湛水状況 (令和4年1月20日時点)



堤体内での観測 (漏水量観測)



ダム右岸鞍部での観測 (地下水位観測)

# 試験湛水状況のライブ配信

これまでダム堤体コンクリートが打ち上っていく様子を配信してきた『川上ダム LIVEカメラ』ですが、令和3年12月16日（木）からの試験湛水開始に伴い、湛水状況が分かりやすい位置へカメラの移設を行いました。

日々、ダムに水が貯まっていく貴重な映像を、リアルタイムでご覧になれます。『川上ダム LIVEカメラ』は川上ダムHPからアクセスできます。

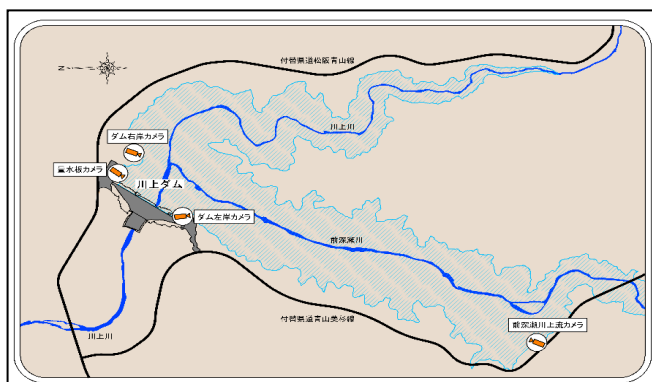
川上ダム LIVEカメラ URL

<https://kawakamidam-cam.arksystem.jp/>

※動画配信時間は午前5時から午後9時まで



ライブカメラ



カメラ設置位置



ダム右岸カメラ

【機械課 後 雄貴】



## 令和3年度業務推進発表会が開催されました

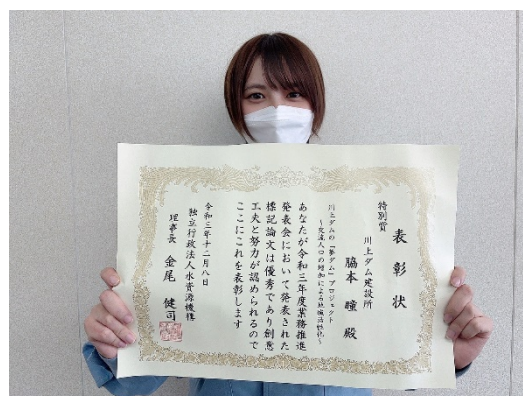


### 発表のテーマ:川上ダムの「夢ダム」プロジェクト ～交流人口の増加における地域活性化～

令和3年12月8日（水）に、令和3年度業務推進発表会が開催されました。今年度も新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、Webでの配信となりましたが、当建設所からは、1題発表しました。

当建設所では、地域連携PTを発足し、その中で川上ダムの建設最盛期の集客力を利用したアイデアや、それを実現するための方策を考えています。本発表では「日本一夢の貯まるダムを造ろう！」をキャッチコピーとして、コロナ禍でもできるイベントを開始したことや、観光資源の開発など令和2年度に行った地域連携PTの取組を中心に報告をしました。今回は建設中ならではの「今しかできない」という機会を捉えた取組等が評価され、特別賞を受賞することができました。

この発表では、他事務所の取組についても参考になるものが多かったため、管理移行後を見据えた地域活動に繋げていければと考えています。



理事長より賞状を頂きました  
(マスクの下は満面の笑みです。)

【経理課 脇本 瞳】

# 試験湛水中の地震に備えた地震防災訓練実施

川上ダムでは、令和3年12月21日（火）と23日（木）に、今年度2回目となる地震防災訓練を実施しました。今回の訓練では、試験湛水を開始したことから、これまでの建設現場における地震防災ではなく、ダム管理を前提とした地震防災の習熟を図りました。訓練内容の大きな違いは、点検対象にダム堤体の安全性やダム管理用の電気設備等が加わったことです。点検方法は監視カメラ画像による確認や現地点検、各種観測設備や機器監視データの収集により異常の有無を確認します。実際の地震発生時には、これらの対応について点検レベルを上げながら3段階に分けて行うことになります。

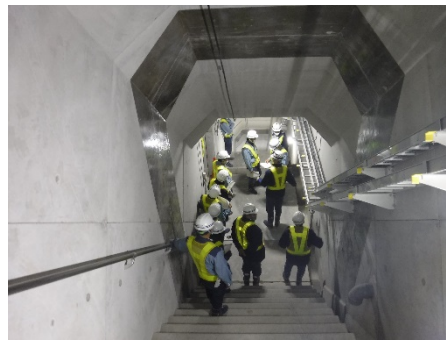
訓練後の反省会では、限られた人員で効率よく点検巡視を行うために、点検チェックシートや巡視ルートの改善について意見を出し合いました。今後も訓練を重ね、地震への備えに万全を期してまいります。



管理棟操作室での機器操作訓練



ダム堤頂管理設備の点検訓練



ダム監査廊内での点検訓練



ダム貯水池周辺の巡視訓練

【工務課 渡辺聡嗣】

## オオサンショウウオの幼生調査を実施



川上ダムが位置する前深瀬川とその周辺の河川には、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオが広く生息しています。

当建設所では、オオサンショウウオの生息状況及び保全対策の効果等を確認するため、モニタリング調査を行っており、令和4年1月17日（月）から1月19日（水）にかけて、ダムの上下流域にて幼生のモニタリング調査を実施しました。凍えるような寒さの中での調査となりましたが、約80個体の幼生を確認することができました。



幼生調査のようす



オオサンショウウオの幼生（約4cm）

オオサンショウウオの幼生は全長4～5cm程度、全身が黒一色でエラがついており、さながらオタマジャクシのようです。これらの幼生は概ね4～5年程度の月日を経て変態（エラがなくなり、エラ呼吸から肺呼吸へ形態が変化）し、広く認識されている成体の姿になります。

今後もオオサンショウウオのモニタリング調査を実施し、生息状況の変化の把握及びこれまでに実施した保全対策等の効果確認を行います。

【環境課 戎谷大和】

# 川上ダム建設所安全協議会の開催

安全第一

～伊賀労働基準監督署に参加いただきました！～



伊賀労働基準監督署とともに  
工事現場をパトロールしました

パトロールの指摘事項については、施工業者による是正を既に完了しております。また、この内容は受注者へ周知することで、同様の危険箇所をなくし、労働災害の発生を未然に防ぐ効果が期待できます。

令和3年は当建設事業に関わる工事件数が多くありましたが、労働災害ゼロを達成しました。川上ダム安全協議会は、今後も安全第一に無事故で事業が推進されるべく、活動に取り組んでまいります。

当建設所では、工事現場の安全点検や受注者への指導などを目的として年に5回、安全協議会を開催しています。

令和3年12月8日（水）に行った第4回安全協議会では、伊賀労働基準監督署から署長と安全専門官の2名に参加いただき、署長からの挨拶の後、安全専門官による安全に関する講話を受けました。その後、安全協議会でやっている安全パトロールに同行され、安全対策に関する指摘をいただきました。



受注者も参加いただきました

【工務課 山田 聖】

## イベント速報

川上ダムでは、事業に対する興味や理解をより深めていただくため、工事現場見学会を実施しています。令和4年2月、及び令和4年3月の見学会は、令和4年3月6日（日）開催の「初瀬街道まつり」の中で実施する予定です。詳細が決まり次第、改めてHPにてご案内いたします。

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、中止とさせていただく場合がございます。

## 編集後記

令和4年も早一月が経ちましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。筆者は、春を迎える前に、家族総出で鍋をするなど、お家で楽しめる冬を満喫しているところです（筆者おすすめの具材は、白菜とカレイです）。

新型コロナウイルス感染拡大防止を考えると、外出も難しい状況ではありますが、皆さまも今だからこそ楽しめる冬を発見してみたいはいかがでしょうか。

### 【広報誌発行事務局】

編集長 津久井（所長）

デスク 荒木（総務課長）

記者 奥野（総務課）

高橋（機械課）

渡辺（工務課長）

北爪（調査設計課）

山下（工事課）

近藤（用地課）

山田（工務課）